

国語科学習指導案

単元名：詩を味わおう

「ぼくは川」

(全2時間扱い中 第2時)

授業日時 2021年7月2日(金)第5校時

授業学級 4年西組

授業会場 4年西組教室

授業者

指導者

(1) 主眼 (授業の手立て&ねらい)

作者の伝えたいことを考える場面で、作者の思いがわかる言葉や表現に着目して、自分の意見を書いたり、友達の意見を聞き、整理することを通して、作者の伝えたいことを考え、ぼくは川であることに共感しようとしている。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. 教師の音読を聞き、作品に対して感想を持つ。	「川って流れるものだね」 「でも川って流れるものなのに、『ぼくは川』って変/おかしい」 「川は人じゃないけど、『ぼく/自分』のことを川に例えているのかな？」 「ほとぼしる」の意味をPCで調べたろう。	※子どもの川に関するイメージをメモ程度に板書し、全体にフィードバック。 ※必要があれば子どもが「ぼくは川」という表現に注目して違和感を感じ取れるように、教師は川に関するイメージを問う。 「川ってどんなものかな？」 ※あくまで川と人との違いを顕在化させたいだけなので、発問自体は強調しすぎない。 「でも「詩」って言うのは作者が読者に何かを伝えたくて書いたものだね。」 「じゃあ作者の伝えたいことはなんだろう？」 学習問題として板書。	8
	2. 一人で作者の伝えたいことを考え、ノートに書き、発表する。	「川みたいに流れて、前に進んで行け」 「川が広がるように、成長してほしい」 「ここにこう書いてあるから、作者はこう言うことを伝えたいんだと思う」	※机間指導 ・全体での共有の際、自信を持って発言できるように、各々の意見に良い点を見つけ、認める声掛け。 ・指名する子どもを決めておく。	5 (13)
【学習課題】 作者の思いがわかる言葉や表現を探し出せばよさそうだ				

展開	3. 作者の伝えたいことがわかる言葉や表現を考える。	<p>「『背をのばし』って書いてあるから、作者は川のように成長してほしいってことを伝えたい」</p> <p>「『じわじわひろがり』から、作者は前に進んでいけと言っている」</p> <p>「『あたらしい日へほとばしる』から、夢/希望を持ってと言っている」</p>	<p>「自分のノートに書いてある『作者の伝えたいこと』が、詩の中のどの言葉、表現からわかる？」</p> <p>※再度、個別で考える時間を持つ</p>	10 (23)
	4. 3で上がった意見の共通点や類似点見つけ、整理する。	<p>「『それでも』って書いてあるから、『真っ赤な～』は反対のことを言っている」</p> <p>「前半は川について書いてあって、後半は「ぼく」について書いてある」</p>	<p>※本文と意見を線で繋いだり、詩の内容の移り変わりを区切ったりして、詩の構成と伝えたいことの内容を、黒板上に可視化していく。</p>	7 (30)
	5. もう一度音読を聞き、「ぼく」に焦点化した上で、改めて感想を持つ。	<p>「読んでる人にも、あなたは川だと言っている」</p> <p>「ぼくも/わたしも川だ」</p> <p>「川が勢いよく伸びていくように、私も～風でありたい」</p>	<p>「ぼくって誰のことを言ってる？」※必要に応じて、川の姿（作者の伝えたいこと）を子どもたちの現状に適應していく。</p> <p>「みんなもこの詩の川の姿が、自分自身と似ていると思うかもしれません。川は『あたらしい日へほとばしる』と言っているね。みんなはどんな希望を持っている？」</p>	5 (35)
<p>【本時の評価（評価する対象）】</p> <p>詩の中の表現から、作者の想いを考え、ぼくは川であることに共感しようとしている。</p>				
終末	6. 今日一番心に残った表現を抜き出して、そこにどんな感想を持ったかノートに書き、発表する。		<p>※3で着目した表現に限らず、友達の意見も参考にして考えられるように促す。</p>	10 (45)